

論文内容の要旨

氏名	中西 佑季子
Ultrasonographic findings in nevus lipomatosus cutaneous superficialis: What differentiates this tumor from other soft tissue tumors? (和訳) 表在性皮膚脂肪腫性母斑の超音波所見:この腫瘍と他の軟部腫瘍との鑑別点は?	

論文内容の要旨

表在性脂肪腫性母斑は真皮において成熟脂肪細胞が増殖する稀な良性過誤腫である。臨床的には、脂肪腫や神経線維種、静脈奇形、血管脂肪腫を含む軟部腫瘍との鑑別がしばしば困難である。多発性で時に肥大した結節となる古典型は特に、臨床所見、CT 所見およびMRI 所見から脂肪肉腫と鑑別することが難しい。本研究では、病理組織学的に表在性脂肪腫性母斑と診断された8症例の超音波検査所見を分析し、その特徴を要約した。すべての症例で真皮内または真皮から皮下に境界不明瞭な高エコー腫瘍を認め、7例で後方エコーの減弱を伴っていた。カラードプラでは腫瘍内部に血流は認めなかった。超音波画像は異なる音響インピーダンスを持つ界面での超音波の反射を利用して作成されている。表在性脂肪腫性母斑では、膠原線維束に混在する異所性脂肪細胞によって超音波が散乱され、高エコー腫瘍として描出され、さらに超音波の散乱が組織の透過性を低下させ、後方エコーを減弱させると考える。我々は表在性脂肪腫性母斑と他の軟部腫瘍の鑑別に超音波検査が有用であると結論づけた。